赤川先生の思い出

M③　馬場　惇

私達 M③の学生は、赤川先生が最初に卒業論文を指導されたクラスです。そのうち 6 名が先生の研究室の愛弟子の立場にあります。

先生が新書を出版された時、ご丁寧な所見をつけたお手紙をそえて、幾度か私に贈って下さいました。先生は、気水分離から始まり、「気液二相流研究」全域にわたる権威者でありました。

日頃、温厚なお人柄の先生は、学術上の課題にふれる時は、急にお人が変わったように熱くなり、語調が変わりました。

「我が国では、各界の有識者や行政にたずさわる者達は、掘り下げ方が足りず、無責任な論評が多い。その点、君なら理解してくれると思う。」と本音で話を聞かせてくれました。（2007 年 1 月、「気液二相流研究史」出版時）この時、私は、この学術分野で孤高の地位を保っておられた赤川先生のご人格とご心境に触れた思いがして、頭が下がりました。

10 年程前（2006 年）、私の自著「青年の夢－二つの世紀にまたがって」を出版し、先生にお贈りした時の事です。卒業論文の指導を受けていた頃の先生の指導ぶりと人柄についての記事を読んで、「学者冥利に盡きる」と悦んでくださったことがありました。この時、「本書は全編を通して、近年稀に見る武士の心で書かれている。また、塑性加工、高圧下での技術分野で、歴史書としても評価できる。」と褒められて、全く恐縮しました。同時に、8 歳年上の先生が、身近に感じられました。

最後に、昨年末、91 才の長寿を全うされた先生の思い出を胸に刻みながら、御冥福をお祈り申し上げます。

以上